

5—41—0

(包紙)

「中井与惣兵衛様 尾崎惣十郎」

急用手形入」

5—41—1

(端裏書)

「與惣兵衛様 惣十郎

極内用」

以別紙得貴意候

然者

御前御内用先達

御沙汰被遊<sub>ニ</sub>付先便

申上候而何卒当年ハ

御止<sub>ニ</sub>被成候様<sub>ニ</sub>段々

申上候得共当春御出

兼之御様子<sub>ニ</sub>付

御手元より少し御増し

被遊御入湯其外有之

少々宛之御入増も被

為在候<sub>而</sub>當暮之御仕廻

殊外御指支被成御座

當春貴公様より御内々

御指上被成候御書附も

御座候付少しハ御引

当被成候<sub>而</sub>御払口々之

思召御書入<sub>ニ</sub>被成候旨

被遊御意候間定

与惣兵衛呵可申候へ共

厚ク甚<sub>勧力</sub>弁吳候<sub>ニ</sub>

私より可申上候旨被仰付

極内御書御渡被成

何卒<sub>ニ</sub>亦々御出情

御考被成候<sub>而</sub>兩人より

操出し候處御取計

御指上被成候様格別ニ

御談事可申上旨被仰付候

間深田六ツ之内当暮

御談被成かたく思召

候處奉遠察候、定而

御配意可被成奉存候

乍去当春大谷氏より

内存書御座候故無

拠申上候、厚々御考

被成候而御指被成候ハ、

私義も難有奉存候

とふそ御出情御指上可被成候

則御書御廻上候間

御頂戴可被成候、以上

十二月七日